

ソ連共産党中央委員会の
書簡(1964年7月30日付)にたいする

中国共産党中央委員会の返書

1964. 8. 30

外文出版社

北京

ソ連共産党中央委員会の
書簡(1964年7月30日付)にたいする
中国共産党中央委員会の返書

外文出版社
北京

目次

ソ連共産党中央委員会の書簡(一九六四年七月三十日付)にたいする

中国共産党中央委員会の返書(一九六四年八月三十日)

付

中国共産党中央委員会にあてた

ソ連共産党中央委員会の書簡(一九六四年七月三十日付)

ソ連共産党中央委員会の書簡（一九六四年七月三十日付）にたいする
中国共産党中央委員会の返書

ソ連共産党中央委員会

親愛なる同志のみなさん

中国共産党中央委員会は、ソ連共産党中央委員会の一九六四年七月三十日付の書簡をうけとりました。あなたがたのこの書簡は、団結を要求し分裂に反対する多くの兄弟党の願いをまったく無視し、兄弟党の国際会議開催の問題についての話しあいの道をびつたりとごし、国際共産主義運動を公然と分裂させる号令をかけています。

わたしたちは今年七月二十八日にあなたがたにあてた書簡のなかでつぎのように指摘しておきました。「あなたがたが横暴にも、一方的な、不法なやり方で国際共産主義運動を公然と分裂させる会議を準備し、開催しようとするで決意しました」あなたがたはすでに「兄弟党の国際会議のために修正主義の政治綱領と分裂主義の組織路線を規定しました」「あなたがたは、すつか

りお膳立てをすませています。つまり、どんな会議をひらくか、だれが準備するか、だれが参加するか、だれが招集するか、すべてがあなたがたのいいなりしだいです。あなたがたから見れば、すべての兄弟党はみなカライにすぎず、あなたがたの命令にしたがう資格しかないのです」と。わたしたちはまた書簡のなかであなたがたに利害得失を説明し、あなたがたが反共、反人民、反革命のちっげな分裂会議をひらくことはみずからもとめて破滅の道にはいりこむことだと指摘し、あなたがたが崖っぷちで手綱をひきしめるようにまごころをこめて勧告しました。

あなたがたは七月三十日付の書簡のなかでは、七月二十八日にあなたがたにあってわたしたちの書簡を全然問題にしていません。さいきん急いで分裂会議をひらくことに反対している多くの兄弟党の呼び声にたいしても、あなたがたはまったくそ知らぬ顔をしています。

あなたがたは今回の書簡のなかで、中ソ両党会談やその他の関係ある兄弟党の両党会談またはいくつかの党の会談を通じて一致した取りきめをむすばずに起草委員会をひらく、と横暴にも規定しています。この起草委員会のメンバーはあなたがたの指定した二六の党にかぎられ、これより一つ多くても少なくてもいけないのであつて、もはや相談の余地がありません。また、起草委員会のメンバーは大いそぎであなたがたに代表団の名簿を提出するとともに、今年の十二月十五日までにモスクワに出頭しなければならず、けつして期限におくればならないというのです。

あなたがたは、じぶんの指定した起草委員会の開催さえ待ちきれないで、来年の中旬ごろに国際会議をひらくと規定しています。

あなたがたの書簡はまた横暴にも、兄弟党の参加不参加にかかわりなく、あなたがたの指定した起草委員会を期日どおり開催し、あなたがたが一方的に招集する国際会議を期日どおり挙行すると宣言しています。

こういうことをするなら、あなたがたが今年十二月に起草委員会をひらくその日は、国際共産主義運動の大分裂の日として、歴史に書きのこされることになるでしょう。

あなたがたの書簡は、世論をあざむくために、美辞麗句をたくさんらべたてています。あなたがたは、じぶんが国際会議をひらくのは団結を「まもり」「強める」ためであつて、分裂をひきおこすためではないといっています。だが、もしもそれがほんとうなら、すくなくとも兄弟党国際会議の準備と開催の手続きや段取りにかかわりのあるすべての問題について、全世界のすべての兄弟党が平等に話しあうという原則にもとづき、二つの党またはいくつかの党の会談によつて、一致した取りきめをむすぶのでなければなりません。ところが、あなたがたは、いま、兄弟

党が話しあいで見解を統一するという原則をすっかりふみにじり、急いで会議をひらくことに反対する兄弟党の意見をまったく考慮しないで、兄弟党の参加不参加にかかわりなく会議をひらくとしていくのです。これではどこに団結のひとかけらでもあるといえるでしょうか。これはあきらかに分裂をくだてるものではないでしょうか。

あなたがたは、じぶんが国際会議をひらくのは、「すべての兄弟党を連合させる共同のものを見つけたす」ためだといっています。これはなおさら人をだますデタラメな言いぐさです。兄弟党の共同のものはたしかにあります。それは一九五七年の宣言と一九六〇年の声明の革命的原則にはかなりません。ところが、あなたがたは早くからこうした共同のものをすてさり、修正主義の道をますます遠くつっぱしっています。あなたがたはいま、じぶんの修正主義路線を放棄すると言も表明しないばかりでなく、その路線をあくまで国際会議におしつけようとしています。これでは、あなたがたと全世界のマルクス・レーニン主義者のあいだに、どんな共同のものがあるのでしょうか。

とんにち、全世界の共産主義者と革命的人民のまえに提起されているもつともさしせまった共同の任務は、アメリカ帝国主義とその手先に反対することです。ところが、あなたがたはひたすらアメリカ帝国主義とグルになって、あなたがたをアメリカ帝国主義と連合させる共同のものを

さがしもめています。あなたがたはアメリカ帝国主義に反対するあらゆる闘争の前線から身をひくと、一再ならずアメリカ帝国主義に表明しています。アメリカ帝国主義が社会主義兄弟国であるベトナム民主共和国にたいして武力侵犯をおこなったとき、あなたがたはベトナムがアメリカの侵略に反対することを支持するとはつきり表明しなかつたばかりか、おそれいっただことには敵に糧よろしく、アメリカ帝国主義が国連をつうじてベトナムに干渉するのを積極的に支持しました。あなたがたがこのような反共、反人民、反革命の路線をすすめている状況のもとで、マルクス・レーニン主義者はあなたがたとならんかの取りきめをむすんだり、共同行動をとったりするなどといったことがどうしてできるでしょうか。

あなたがたはまた、さまざまの脅迫手段をつかつて、わたしたちや他の兄弟党をおどしています。あなたがたがたのみとしているのは、帝国主義や各国の反動派と結託し、右翼社会民主主義者、トロツキスト、変節者、裏切り者を利用して、ほしいままに兄弟党にたいする転覆、破壊活動をおこなうということにはかなりません。だが、あなたがたがそんなことをしても、べつに大したことではありません。これまで、あなたがたはいやというほどおこなってきたのですから。だが、そうすればそうするほど、あなたがたはいよいよじぶんの願いと反対の方向につっぱしることになるのです。マルクス・レーニン主義を堅持している兄弟党は、あなたがたが転覆さ

せ、破壊できるものではありません。これらの党はあなたがたとの闘争のなかでいよいよ強まり、成長するだけです。逆に、あなたがたのこうした卑劣な行動は、革命を裏切るあなたがたの正体をいつそう暴露するだけです。「アリが大木をゆさぶるなどということが出来るはずはない」。帝國主義者、各国の反動派、それに修正主義者は、全部あわせても歴史のゴミ箱に投げ込まれるひとにぎりの連中にすぎないのです。

わたしたちがこれまで何回ものべてきたように、国際会議の準備、開催、およびこれに参加するメンバーなど、こういつたいつさいの問題については、もとからあつた党、再建された党、あらたに創立された党をふくむ全世界のすべての兄弟党が話しあいによつて見解を統一しなければなりません。そうでなければ、あなたがたがどんな起草委員会、どんな国際会議をひらいても、すべて不法です。

わたしたちは決してあなたがたの美辭麗句にだまされはしないし、あなたがたの脅迫やおどかしに屈服しはしません。また、わたしたちは決してあなたがたの分裂の陰謀の共謀者になることはできないし、あなたがたとともに国際共産主義運動の分裂に責任をおうこともできません。もしもわたしたちがあなたがたの分裂会議に参加するなら、それはあなたがたの不法な活動を合法化することになり、あなたがたに宣言と声明の規定する兄弟党の相互関係の準則を破りする

権利があることを認めることになり、あなたがたがおやじの党であることを認めることになりま
す。わたしたちは原則に責任をもち、歴史に責任をもつのであつて、そんなことが絶対にできな
いということは言うまでもありません。

わたしたちは中国共産党中央委員会が今年七月二十八日にソ連共産党中央委員会にあてた書簡
のなかであきらかにした立場をかさねて、表明します。

「中国共産党は、十分な準備をしたうえで、マルクス・レーニン主義の基礎のうえに団結した
兄弟党の国際会議をひらくことをあくまで主張し、あなたがたが分裂のための会議をひらくこと
にだんこ反対します」

「中国共産党中央委員会はおごそかに声明します。われわれは、国際共産主義運動を分裂させ
るあなたがたの国際会議や、その準備会議にはだんじて参加しない」と。

あなたがたは、今年十二月に起草委員会をひらき、来年の中ごろに国際会議をひらくことを一
方的に決定しました。あなたがたは、これによつて生じる国際共産主義運動の公然たる分裂のす
べての結果に責任を負わなければなりません。

中国共産党は全世界のマルクス・レーニン主義兄弟党、およびマルクス・レーニン主義者とと
もに、マルクス・レーニン主義の革命の旗をいつそう高くかかげ、プロレタリア国際主義の団結

の旗をいつそう高くかかげ、帝國主義反対の戦闘的な旗をいつそう高くかかげて、あなたがたの修正主義、分裂主義、降伏主義に反対する闘争を最後までやりぬく決意であります。

わたしたちはすでにあなたがたに警告しておきました。あなたがたが分裂のための会議をひらく日こそ墓穴にはいる時である、と。あなたがたの七月三十日付の書簡は、あなたがたがすべての結果をかえりみることなく、またもやじぶんの掘った墓穴にむかつて大きく一歩足をふみ入れたことを物語っています。このように緊迫しているときにあたつて、いったい、みずからすすんで破滅の道にはいりこんでゆくべきなのか、それとも悔いあらためて正しい道へもどるべきなのか、あなたがたが利害得失をよくみさだめ、自分でりつぱに選択されるよう希望するものです。兄弟のあいさつをおくりします！

一九六四年八月三十日

中国共産党中央委員会

中国共産党中央委員会にあてた

ソ連共産党中央委員会の書簡（一九六四年七月三十日付）

中国共産党中央委員会

親愛なる同志のみなさん

ソ連共産党中央委員会は、中国共産党中央委員会にあてた六月十五日付の書簡をすべての兄弟党に配布しました。その書簡には、国際共産主義運動の意見の相違のおもな問題に関する立場がのべられており、さらに国際共産主義運動の団結をつよめる措置についての具体的な提案がなされていきます。

いままでのところ、圧倒的多数の兄弟党はみな、わたしたちの隊列のなかに生じた困難を集団的行動によつて克服すべきであると表明しています。これらの党は各国共産党・労働者党代表のあらたな国際会議をひらくことを主張しており、しかも、多くの党はこうした会議の開催を長期にひきのばしてはならないという立場を堅持しています。

ソ連共産党中央委員会は、兄弟党のこうした立場はこれらの党が共産主義運動の運命にひじょうな関心をもっていることをあらためて証明したものであり、当面の情勢が共産主義者にあたえたる崇高な責任をこれらの党が意識していることをもう一度証明したものであると考えています。

マルクス・レーニン主義者は、四年前わたしたちの隊列のなかに生じた意見の相違が緩和しないばかりか、むしろ日ましに重大化しているという事実、目をふさぐわけにはゆきません。思想のうえでの意見の相違がすでに公然たる衝突にまで発展している以上、もしも措置をこうじなければ、こうした公然たる衝突は国際共産主義運動の分裂をもたらすこととなるでしょう。こうしたことはすべて、各国共産党、とりわけ資本主義諸国の共産党の活動にとってひじょうに不利であり、世界共産主義運動全般に危害をもたらし、世界社会主義体制の団結を破壊し、社会主義思想の魅力を弱めることになるでしょう。

ますます多くの事実が物語っているように、わたしたちの階級敵はあらゆる手をつくして共産主義者の隊列の不和を利用しようとしています。帝国主義反動派、とりわけアメリカについては、その活動に拍車をかけて、じぶんの陣地の強化をはかり、労働運動、民族解放運動、民主運動に攻撃をくわえ、社会主義諸国の団結をゆさぶり、戦争による脅威をつよめようとしています。

真のマルクス・レーニンの党はどの党も、事態のこのようななりゆきにたいして無関心ではいられません。だれもわたしたち共産主義者にかわって共産主義運動の直面しているさまざまな問題を解決することはできないし、どの党も運動全般の利益と運命にかかわるさまざまな問題を単独で解決することはできません。このばあい必要なのは、あらゆる兄弟党、あらゆるマルクス・レーニン主義者が共同で集団的に努力することです。各国の兄弟党はこうした結論をひきだしたからこそ、あらたな国際会談を組織するという主張を堅持しているのであり、これこそ意見の相違を克服し、共同の立場を制定する試練ずみの方法であると考えているのです。

よく知られているように、兄弟党は一九五七年の会議で、「各兄弟党と話し合うという条件のもとで、ソ連共産党に責任をもつて共産党・労働者党会議を招集することを委託する」という決議を全員一致で採択しました。

いままでのところ、必要な話し合いはすでにすめられており、各国共産党の国際会議を招集する問題もすでに充分くわしく、全面的に討議されており、すべての共産党の立場もはっきりしています。現在の問題は、この問題を実際に解決することにはかなりません。ソ連共産党中央委員会は圧倒的多数の兄弟党がすではつきりと表明した意志を考慮にいれて、いまや国際会議招集の準備活動をはじめるときがきたと考えます。わたしたちは、今年中に起草委員会をひらくべき

だと考えます。わたしたちは事前に、意見を交換する過程で、起草委員会のメンバーの問題が起草委員会をひらくにあたってのあらたな障害となるであろうということに気づいたため、唯一の合理的な活路は、一九六〇年の会議を準備したさいのメンバーにもとづいて起草委員会を招集すること、つまり、オーストラリア、アルバニア、アルゼンチン、ブルガリア、ブラジル、イギリス、ハンガリー、ベトナム、ドイツ民主共和国、西ドイツ、インド、インドネシア、イタリア、中華人民共和国、朝鮮、キューバ、モンゴル、ポーランド、ルーマニア、アメリカ、シリア、ソ連、フィンランド、フランス、チェコスロバキア、日本などの二六カ国の共産党・労働者党の代表で起草委員会を構成することだと考えています。

ソ連共産党中央委員会は、国際会議準備の実際の仕事をはじめするため、以上にあげた兄弟諸党の代表が一九六四年十二月十五日までにモスクワに到着するよう招請します。

もしも起草委員会がはじめから全員参加のもとで活動をはじめることができれば、それが共同の願いに合致するものであることに疑いはありません。しかし、二六の共産党のうち、たとえどれかひとつの党が上述の期限までに自己の代表をよこさなかつたとしても、委員会はやはりその仕事をはじめるべきだと、わたしたちは考えます。

これまでのいくどかの会議の経験にもとづき、起草委員会は国際会議に討議資料として提出す

る主要文書の草案を準備することになるでしょう。委員会は国際会議の開催と関係のあるすべての問題を討議し、さらにこれらの問題について自己の提案をおこなうことができます。起草委員会はこれらのすべての問題にたいするその提案と提議をすべての兄弟党に配布すべきです。

ソ連共産党中央委員会は、共産主義運動の内部に複雑な情勢が存在するにもかかわらず、いまもやはり起草委員会に首尾よく任務を遂行させるあらゆる理由があると信じています。委員会が必要な準備活動を終えれば、その規定した期限内に国際会議をひらかなくてはなりません。

会議の目的と見通しについては、ソ連共産党中央委員会はすでに六月十五日付の書簡のなかで自分の意見をのべておきました。わたしたちにとつて、会議の問題が世界共産主義運動を擁護し強化する団結の問題と不可分に結びついていることを、わたしたちはもういちど強調したいと思えます。会議をひらくのは、だれかを糾弾し、だれかを共産主義運動と社会主義陣営から「はじき出し」、だれかに侮辱的なレッテルをはりつけて、たがいに無責任な非難をあげせあうためではありません。こんなことをすれば、わたしたちの手にはいるものは団結の強化でなく、いつその分離だけです。会議は全力をあげて、すべての兄弟党を連合させる共同のものをさがしものとめ、すでに生じた意見の相違をとりのぞく道をさがしもとめるべきである、とわたしたちは考えます。

ソ連共産党中央委員会はどの兄弟党も会議で率直かつ真剣に自分の観点をのべることによつて、共同の路線と共同の決議をきだめるさいに自分の観点を考慮してもらうことができ、また、他の党の意見をきくことができる、と考えます。

見うけるところ、これまでのいくどかの会議で採択された決議、つまり世界共産主義運動の総路線を規定した一九五七年の宣言と一九六〇年の声明は、新しい会議が活動をはじめの起点となるでしょう。しかも、新しい会議は宣言と声明の原則を確認すると同時に、これまであゆみできた段階を総括し、経験を交流し、世界共産主義運動の前に提起されたすべての問題にわたつて研究し、そのうえすでに発生した国際情勢の変動にもとづいて宣言と声明の思想を補充し、発展させ、新しい問題を創意的に分析し、解決することができます。先の国際会議らしい四年間に生じた経済と社会政治の新しい現象と過程を集团的に分析して、評価と立場を調整し、こうした評価と立場にもとづいて共同の政治路線を充実させ、さらに具体化するということ——わたしたちはこれこそ新しい国際会議のもつとも重要な任務にはかならないと考えます。

ソ連共産党は他の兄弟党と同様、するどい意見の相違が存在する状況のもとで会議をひらくのは困難かつ複雑なことであるということを、ひじょうにはつきり知っています。一貫して団結を主張しているすべての人びとがすべての問題について意見を一致させようとどんなに努力して

も、会議の過程で一挙にこれを実現することは不可能かもしれませぬ。しかし、だからといって、けつしてこのことが分裂を「肯定する」ことにならず、団結に向かう道をひきつづきさがし求めるのをさまたげることにもならないと、わたしたちは確信しています。こうした状況のもとでは、つぎのような問題について取りきめをむすぶことをこころみることもできます。つまり、会議の参加者がすべての兄弟党の意見を考慮し、立場と利益がおなじであることを発見した領域で誠意をもって協力するとともに、こんご、困難を大きくし、階級敵をよろこばせるにすぎないような行動は一切とらないという義務を負うということです。

わたしたちは、すべての兄弟党がこうした提案の検討にしかるべき注意をはらい、会議がひらかれるまでの時間を利用して、共産主義運動のなかにすでにつくりだされた情勢をつつこんで検討するとともに、困難を克服する道を討議し見つけだすうえで建設的な貢献をするよう希望するものです。

わたしたちは、起草委員会が文書の草案を完成しさえすれば、すぐ国際会議は活動を開始することができます。それはおよそ一九六五年の中ごろになるでしょう。また、この面で克服できないどんな障害も存在しないということを確信しています。一九六〇年の会議に参加した八一の党の代表はすべて国際会議に出席することができます。あれこれの党が集団的な活動に参加するこ

とをこぼんでも、すでに機の熟した措置の実行をこれ以上ひきのばす理由にはなりません。これらの措置をとる目的は、全世界のマルクス・レーニン主義者の国際主義的団結を強める道筋と方法をさだめることにあります。

ソ連共産党中央委員会は、以上の提案が世界共産主義の最高の利益に合致し、現代のすべての進歩的革命勢力の団結を強化するという利益に合致したものであること、また、これらの提案が圧倒的多数のマルクス・レーニン主義政党的意志を反映したものであることを確信しており、すでにさだめられたそれぞれの措置が遅滞なく実施され、成功をおさめることを期待しています。すべての兄弟党に会議の準備状況を知らせることができるよう、起草委員会の活動に参加するあなたがたの代表団のメンバーを通知してくださるようお願いいたします。

共産主義のあいさつをおくりします。

一九六四年七月三十日

ソ連共産党中央委員会

ソ連共産党中央委員会の書簡(1964年7月30日付)にたいする
中国共産党中央委員会の返書

1964年 初版発行 定価 20円

出版者 外文出版社

(北京阜成門外百万莊)

発行者 中国国際書店

(北京 P. O. Box 399)

番号: (日)3050-1021

3-J-600P
00013

中国共産党中央委員会と
ソ連共産党中央委員会の
七つの往復書簡

B 6 判 94 ページ

ソ連共産党中央委員会の
書簡(1964年
6月15日付)にたいする
中国共産党中央委員会の返書

B 6 判 66 ページ

出版者 北京 外文出版社

発行者 北京 中国国際書店

